資料2

北海道

北海道交通政策総合指針

重点戦略に関するこれまでの動き

平成31年3月

重 点 戦 略

重点戦略	
① インバウンド加速化戦略	交流人口の飛躍的な拡大をリードし、世界の人が行き交い北海道にインパクトをもたらす交通の実現
② 国際物流拡大戦略	海外の成長力を取り込み、貨物の集積と航空路・航路の充実により、世界をつなぐ北東アジアにおける国際物流拠点の形成
③ シームレス交通戦略	鉄道やバス、タクシーなど交通モード間の連携による利便性が高くストレスのない移動の実現
④ 地域を支える人・モノ輸送戦略	人口減少のもとでも、地域のくらし・産業を支える安定的かつ持続的な交通・物流ネットワークの確保
⑤ 災害に強い交通戦略	地域や交通事業者の連携により、災害時にも安心できる信頼性の高い交通の実現

①　インバウンド加速化戦略

戦略の考え方

交流人口の飛躍的な拡大をリードし、世界の人が行き交い
北海道にインパクトをもたらす交通の実現

- 道内空港や港湾の発着路線拡充･機能強化により、双方向の往来が拡大し、世界に近づく北海道
- 道内外からの観光客が多様な交通手段でスムーズに周遊し、道内の観光関連産業が躍動
- 北海道新幹線の札幌延伸も見据え、高速走行の実現や交通アクセスの整備などにより、来道者が全道に波及

取組の視点

交流人口を大幅に拡大

◆航空路線やクルーズ船の戦略的誘致でインバウンド等を飛躍的に拡大

方策1　航空ネットワークの充実・強化による交流人口の拡大

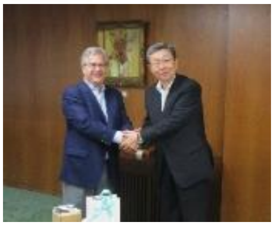
今年度の主な取組

○ひがし北海道初となるLCC（ピーチアビエーション）が関西と釧路を結ぶ路線を開設
○北海道胆振東部地震からの復興に向け、アジア圏において観光プロモーションを集中的に展開
○アウトバウンド需要拡大に向けた海外旅行フェアの開催や若年者の渡航促進に向けた海外教育旅行への支援を実施
○道内７空港の一括民間委託に向けた審査プロセスの推進　　　など

方策2　クルーズ船の道内港への寄港促進

今年度の主な取組

○船社キーパーソンの招請や米国船社へのセールスコールなど関係者が一体となった誘致活動
○北海道におけるクルーズ船誘致方針の策定に向けた検討
○大型船舶に対応した岸壁などの整備［函館港・稚内港など］



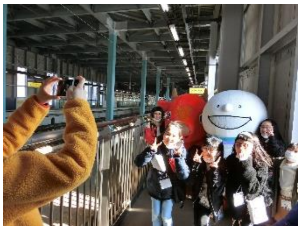
キーパーソン招請

◆北海道新幹線の札幌延伸も見据えた高速走行の実現等

方策3　北海道新幹線の高速走行実現等による利活用促進

今年度の主な取組

○高速走行試験の実施→青函トンネル内における時速160km走行への速度向上【2019年3月ダイヤ改正】
○道内外のお祭りやスポーツイベントにおけるＰＲ活動、体験乗車会・モニターツアーの開催など、北海道新幹線の利用促進に向けた取組の実施



北海道新幹線体験乗車会

①　インバウンド加速化戦略

北海道

◆観光投資を呼ぶグローカルビジネス等の創出

方策4　観光関連産業を中心とした海外からの投資促進

今年度の主な取組

○香港での食・観光・投資プロモーションの実施

食・観光・投資プロモーション

方策5　リピーター増加と北海道ファン（バーチャル道民）の獲得

今年度の主な取組

○来道外国人観光客の再訪促進に向け、情報発信やイベント（夏・冬）を実施

赤れんが庁舎前庭でのイベント

取組の視点　呼び込んだ観光客の周遊

◆全道各地をスムーズにつなぐ交通ネットワーク
◆空港や駅からの交通アクセスの整備等による全道周遊の促進

方策6　道内航空路線の充実

今年度の主な取組

○実証実験（トライアル運航）に向けた調査研究の実施
（未就航区間の分析、効果的な実証実験手法の研究）

方策7　鉄道の輸送機能等の充実や魅力づくりへの活用

今年度の主な取組

○新千歳空港駅にインフォメーションデスクを拡充
○乗り放題パス「HOKKAIDO RAIL PASS」の販売促進

新千歳空港駅の
インフォメーションデスク

方策8　高規格幹線道路ネットワークの形成

今年度の主な取組

○日高自動車道［日高門別IC～日高厚賀IC］の開通
○後志自動車道［余市IC～小樽JCT］の開通
○釧路外環状道路［釧路東IC～釧路別保IC］の開通　など

後志自動車道の開通

方策9 積極的な交通情報の提供

今年度の主な取組

○「札幌観光のみなさま向け交通情報案内」開設
○「旅の安全情報」サイトの運営　など

交通情報まとめサイト

方策10 多言語化された案内表示等の充実

今年度の主な取組

○新千歳空港駅にインフォメーションデスクを拡充
○北海道さっぽろ観光案内所の運営　　など

新千歳空港　航空機運航表示モニター

方策11 バリアフリー環境の充実

今年度の主な取組

○旅客施設の着実なバリアフリー化（１日あたりの平均利用者が3,000人以上のもの）

区　分	平成28年度末	平成29年度末
段差の解消	82.6%	**84.5%**
視覚障がい者誘導用ブロックの設置	88.7%	**91.4%**
障がい者用トイレの設置	86.0%	**86.3%**

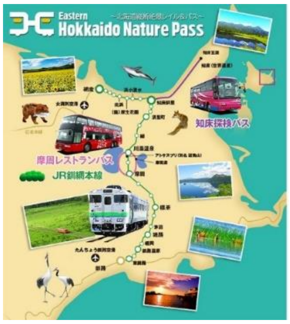
【出典】北海道におけるバリアフリー化の達成状況（H31.1道運輸局調べ）

◆楽しみをかき立てる観光資源の活用や観光列車の運行

方策12 新たな観光ルートの創出・活用

今年度の主な取組

○ＪＲ北海道と道南バスが連携して、倶知安～洞爺間のアクセスバスの試験運行を実施
○「Hokkaido Nature Pass」の販売（釧網線沿線）　など



「Hokkaido Nature Pass」

方策13 新たな観光資源の磨き上げによる誘客促進

今年度の主な取組

○富良野線、宗谷線及び釧網線において、外国人観光客を対象とした観光列車モニターツアーを実施
○海外旅行事業者等をモニターツアーに招へいし、インバウンド対応等について意見交換を実施　　など

観光列車「復興クリスマストレイン」

②　国際物流拡大戦略

北海道

戦略の考え方

海外の成長力を取り込み、貨物の集積と航空路・航路の充実により、世界をつなぐ北東アジアにおける国際物流拠点の形成

- 東アジア地域や極東ロシア地域をはじめ、欧米なども含めた多方面への国際航空路･国際航路の開設による本道拠点とのダイレクト輸送の拡大
- 北極海航路など、新たな国際貨物輸送ルートの実現
- 道内における力強い産業構造の構築により、安定的なベースカーゴの確保

取組の視点

世界をつなぐ航空路・航路の拡大

◆戦略的な国際航空路線の拡大・新千歳空港を核とした国際航空貨物の拡大

方策1　国際航空便の就航促進による国際航空貨物の拡大

今年度の主な取組

○札幌国際エアカーゴターミナルにおいて、国際貨物の増大に対応した新上屋（輸入貨物用）を整備

SIACT新上屋整備

◆北極海航路の拠点形成に向けたステップアップ

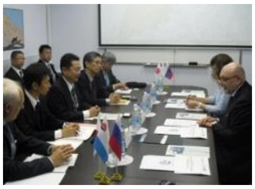
方策2　中継港・ハブ港としての拠点化に向けた検討・航行船舶誘致

方策3　輸送品目の検討・輸送の検証

方策4　航路を活用する企業の拡大に向けた情報共有と気運醸成

今年度の主な取組

○北極海航路に係る今後の戦略に関する情報収集や関係構築に向け、カムチャッカ地方関係者と意見交換を実施
○北極海航路の拠点形成に向けた検討会議の開催



カムチャッカでの意見交換

◆港湾を活用した国際貨物の拡大

方策5　港湾の国際機能強化

今年度の主な取組

○国際バルク戦略港湾（穀物）に選定された釧路港の国際物流ターミナルが完成
○苫小牧港などにおいて、屋根付き岸壁の整備

屋根付岸壁の整備（苫小牧港）

国際物流ターミナル（釧路港）

② 国際物流拡大戦略

北海道

取組の視点 道内産業の活性化・高度化

◆ものづくり産業・食関連産業等の集積促進

方策6 ものづくり産業等の取引拡大・企業立地

今年度の主な取組

○とうほく・北海道 自動車関連技術展示商談会inデンソー、メッセナゴヤ2018 など 商談会等の開催・参加

とうほく・北海道 自動車関連技術展示商談会inデンソー

メッセナゴヤ2018 北海道ブース

◆生鮮品輸出に対応した物流機能の強化

方策7 冷凍・冷蔵倉庫など物流施設の整備

今年度の主な取組

○苫小牧港において、温度管理型冷凍冷蔵倉庫の着工

温度管理型冷凍冷蔵倉庫（出典：苫小牧埠頭㈱）

◆商流と物流が一体となった道産食品の輸出拡大

方策8 道産食品の輸出促進

今年度の主な取組

○北海道食の輸出拡大戦略＜第Ⅱ期＞策定
○アジア地域を中心に、道産食品の輸出拡大を目指す商談会を開催

商談会の様子

③ シームレス交通戦略

戦略の考え方

鉄道やバス、タクシーなど交通モード間の連携による利便性が高くストレスのない移動の実現

- 誰もが安全で快適に利用できる、シームレスで利便性の高い交通環境を形成
- 地域や住民、企業などが一体となって公共交通の利用を促進し、持続的なネットワークを確保

取組の視点　連携の促進・強化

◆地域の課題解決に向けた交通事業者、行政、住民など関係者による強力なタッグチーム
◆関係者が一体となった最適な交通ネットワークの構築
◆持続的な鉄道網の確立

方策1　地域の関係者による検討会議の設置

今年度の主な取組

○十勝圏をモデル地域に選定し、交通事業者や関係機関等により、「シームレス交通戦略推進会議」を設立

シームレス交通戦略会議設立

方策2　鉄道事業者、行政、住民等による一体的な取組

今年度の主な取組

○北海道鉄道活性化協議会を設立し、公共交通の利用促進に向けた「道民キックオフフォーラム」を開催
○関係者会議の開催において、持続的な鉄道網確保に向けた意見交換を実施　など

みんなで乗れば、
未来が変わる。

取組の視点　利便性の向上

◆使いやすさと分かりやすさ、快適さを追求した公共交通

JR帯広駅周辺視察

方策3　利便性向上に向けた社会実験等の実施

今年度の主な取組

○「シームレス交通戦略推進会議」において、公共交通機関の乗り継ぎなどの利便性向上に向けた取組について検討
○駅周辺施設の視察後、乗り継ぎ案内看板の位置や表示内容を改善

取組の視点　利用の促進

◆公共交通を大切にする考えとその行動力で地域を守る

ノーカーデーの試行

方策4　公共交通の利用定着に向けた住民の意識改革

今年度の主な取組

○公共交通の果たす意義などを訴えるため、住民向けの出前講座を開催
○公共交通の利用促進に向けて、自動車通勤する振興局職員を対象に、「全振興局一斉ノーカーデー」を試行
○公共交通の利用促進に向けて、道民キックオフフォーラムを開催　など

④　地域を支える人・モノ輸送戦略

戦略の考え方

人口減少のもとでも、地域のくらし・産業を支える
安定的かつ持続的な交通・物流ネットワークの確保

- 地域での安定した人･モノ輸送の確保により、道民の安全･安心な生活を確保
- 生産地と連携した物流体制の構築により、道産品の安定供給や産地の収益力を強化
- 自動走行･ドローン等の新技術を活用した人･モノ輸送体制を構築

取組の視点　人の移動の最適化

◆**『人・モノ協働輸送』のさらなる促進**

◆**持続的な鉄道網の確立**

方策1　**地域における持続的で最適な交通モードあり方を検討**

方策2　**鉄道事業者、行政、住民等による一体的な取組**

今年度の主な取組

※「シームレス交通戦略」において記載

道民キックオフフォーラム

取組の視点　人・モノ輸送の連携・効率化

◆**『人・モノ協働輸送』のさらなる促進**

方策3　**貨客混載の促進**

今年度の主な取組

○運送事業者とバス事業者による貨客混載やタクシー事業者による貨物搬送の取組
○JR北海道と佐川急便による貨客混載の実証実験など

貨客混載の実施

取組の視点　人・モノ輸送の技術革新

◆**自動走行・ドローン輸送等の実現に向けた環境整備**

方策4　**自動走行に関する取組促進**

今年度の主な取組

○ワンストップ窓口による関係企業への研究開発支援
○自動走行配送ロボットのユースケース実証（デモ）の実施 など

自動走行配送ロボットのユースケース実証（デモ）の実施状況

方策5　**ドローン輸送等に関する取組促進**

今年度の主な取組

○北海道経済産業局において、ドローンの利活用に向けたセミナー等を開催

④　地域を支える人・モノ輸送戦略

取組の視点　**モノの輸送の効率化**

◆輸送事業者や地域と連携した輸送の『共同化』『効率化』の促進

方策6　**ラストワンマイル輸送の確保**

方策7　**幹線輸送の効率化**

今年度の主な取組

○地域物流効率化検討会議を設置し、関係者による検討

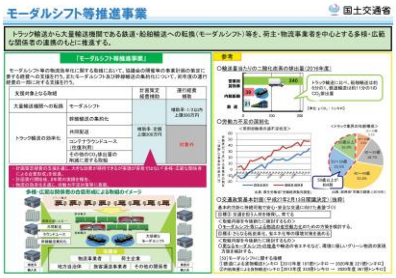
取組の視点　**モノの輸送の効率化**

◆モーダルシフト等の推進

方策8　**事業者間連携等によるモーダルシフト等の推進**

今年度の主な取組

○国土交通省「モーダルシフト等推進事業補助金」に道内から４件（計画策定３件、運行１件）が認定



モーダルシフト等推進事業補助金

◆季節波動などの解消に向けた輸送の効率化

方策9　**産地から消費地までの輸送の効率化**

今年度の主な取組

○関係団体による「北海道交通・物流連携会議　物流対策ＷＧ」を設置し、鉄道貨物輸送を含めた物流のあり方など本道の物流対策について検討

物流対策ＷＧにおける検討

◆荷主と連携した生産性向上

方策10　**生産性向上の必要性への理解・協力**

今年度の主な取組

○「北海道トラック輸送における取引環境・労働時間改善地方協議会」における検討

取組の視点　**次世代を担う輸送人材の確保**

◆多様な人材の確保・育成

方策11　**人材の確保・育成や働き方改革の推進**

今年度の主な取組

○バス運転体験＆合同就職相談会の開催（道内５箇所）
　［札幌、白老、函館、帯広、釧路］
○北海道トラック協会やバス協会による大型免許等の取得助成の実施　など

バス運転体験＆合同就職相談会

⑤　災害に強い交通戦略

北海道

戦略の考え方

地域や交通事業者の連携により、災害時にも安心できる信頼性の高い交通の実現

- 自然災害による交通障害等への迅速な対応が行われ、人やモノの移動が早期に回復
- 代替交通手段の案内など、利用者目線に立ったタイムリーな情報提供で円滑な移動を確保
- インバウンドをはじめとする来道者が、災害発生時にも、安全･安心に旅行を継続

取組の視点　関係機関の連携体制の強化

◆災害時に力を発揮する交通・物流の連携強化

方策1　災害対応に向けた交通・物流関係者の連携強化

今年度の主な取組

○交通事業者や関係機関により「北海道交通・物流連携会議」を設置し、関係機関の連携を強化
○同会議に「情報共有・対応強化ＷＧ」を設置し、災害時等におけるわかりやすい交通情報の提供や関係者が連携した対応方策を検討

交通・物流連携会議

情報共有・対応強化ＷＧ

◆雪に負けない鉄道施設や空港などの機能強化と道路ネットワークの維持

方策2　冬期の公共交通ネットワークの維持

今年度の主な取組

○道路・滑走路の除排雪、除雪機械の更新　など

◆旅行者等に寄り添う地域のサポート体制構築

方策3　地域のサポート体制の構築

今年度の主な取組

○北海道運輸局において、災害時に外国人旅行者へ避難所情報や交通情報を提供する方法を定めたガイドラインを策定予定

訓練の様子

方策4　関係者間による連携協定の活用

今年度の主な取組

○北海道胆振東部地震において、連携協定を活用し、緊急物資等の輸送を実施

連携協定の活用

北海道

取組の視点 **旅行者等も安心できる情報発信**

◆スマホなどでラクラク検索・情報入手

方策5 スマホなどによる便利な交通情報の提供

今年度の主な取組

○交通事業者において、SNSを活用した運行（運航）情報の発信
○札幌商工会議所による「交通情報案内」サイトなどの開設
○北海道運輸局が開設し、北海道内の主要交通機関の情報をまとめた「北海道旅の安全情報」サイトを周知し、便利な交通情報を提供

交通情報まとめサイト

◆交通拠点等でチェックできる多様な運行情報

方策6 交通拠点等における多様な運行情報の提供

今年度の主な取組

○空港ビル会社において、札幌市「大通情報ステーション」に新千歳空港を出発する航空機の運航情報を表示するモニターを設置

新千歳空港　航空機運航表示モニター